

中央線沿い郊外の都市分析に関する研究
 吉祥寺—立川間に形成される都市構造の考察

Research on urban analysis of suburban areas on the Chuo Line based on Edo-Tokyo studies Sub Title Times New -
 - Consideration of the urban structure formed between Kichijoji and Tachikawa -

*本多響¹, 田所辰之助²

*Hibiki Honda¹, Shinnosuke Tadokoro²

Since the Edo-Tokyo theory boom, urban history research has shown new developments in various fields, but efforts across academic fields are insufficient. Therefore, like the Edo-Tokyo theory boom of the 1980s, we will explore the principles behind the establishment of the suburbs along the Chuo Line from a comprehensive perspective, crossing various academic fields.

1. 研究背景

1980年代に隆盛した江戸東京論ブームはテーマに歴史学, 建築史学, 都市計画, 民俗学, 社会学など多様な分野から江戸と東京の連続性を考察するという都市史研究の隆盛期である. しかし, 建築史家・陣内秀信が自著『中央線がなかったら-見えてくる東京の古層-』のなかで指摘するように¹⁾, 当時, 研究対象として注目されたのは山手線の内側であり, 一般に, 東京都中心部と比べ歴史の浅い郊外は, 寺社・古道・遺跡などの分布が乏しい事情もあり研究対象となることは少なかった. そうしたなかで, 1990年代に入り, 陣内が中央線沿線の郊外を研究したが, 建築史学のみでの研究では都市構造の追求という側面において不十分であったといえる. そこで, 1980年代の江戸東京論ブームのように, 様々な学術領域を横断して, 総合的な視点から中央線沿線の郊外を成立させている原理を明らかにする.

2. 研究目的

江戸東京論ブーム以降, 様々な分野で都市史研究は新たな展開を見せているが, 学術分野を横断した取り組みは不十分である. そこで, 1980年代の江戸東京論ブームのように, 様々な学術領域を横断して, 総合的な視点から中央線沿線の郊外を成立させている原理を明らかにする.

3. 研究方法

i) 対象地域(吉祥寺, 三鷹, 武蔵境, 東小金井, 武蔵小金井, 国分寺, 西国分寺, 国立, 立川)について既往研究を整理する.

ii) 対象地域のアイコニックな特徴をそれぞれ設定し,

それを成立させている原理を総合的な視点から導く.

iii) 得られた対象地域ごとの考察から中央線沿線全体で共有されている都市構造を導く.

4. 吉祥寺

吉祥寺のアイコンとして, 井の頭恩賜公園, ハモニカ横丁を取り上げる. ここでは, 自然産物である井の頭恩賜公園ではなくハモニカ横丁の歴史的な展開を遡って追うことで井の頭恩賜公園との関係性を導く.

4-1. ハモニカ横丁と闇市の歴史

現在のハモニカ横丁は東京における多くの横丁と同様にかつて闇市であった. 闇市およびそれを起源とするマーケットの多くは戦後の露店整理や都市再開発によって移転・撤去されたが, ハモニカ横丁は戦前から立地を変えずに現在まで取り残されている稀有な例である. ここで, 闇市の一般的な歴史を整理しながら, 戦前~1960年代のハモニカ横丁を把握する. 闇市とは経済統制のもとで公的には禁止された流通経路を経た物資を扱う市場のことである. 闇市は主に駅周辺の建物疎開地に設けられることが多かったが, 吉祥寺駅周辺地域には空襲の標的になりやすい軍需工場があったため, 吉祥寺駅前は建物疎開地となり, この場所に闇



Figure1. 1953年当時のハモニカ横丁

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・教員・建築

市が開かれることとなった。

闇市は戦後直後まで隆盛したが、GHQによる取り締まりや需要の低下によって衰退し、多くは1950年代の戦災復興期の区画・露店整理および1960年代の高度経済成長期の都市再開発の2度の整理によって移転・撤去された。しかし、ハモニカ横丁は1950年代の区画・露店整理を免れ、1960年代の都市開発に対しては約3000㎡の敷地面積に100前後の店舗が存在すること、借地権・借家営業などの権利関係が複雑であったためにビル建設の計画は頓挫した。2度の整理を免れたハモニカ横丁は図1に示すように4つのマーケットが存在していたこと、さらに、それら異なるマーケットを支配していたテキヤ組織が月窓寺によって統制されていた点で特殊である。

4-2. 吉祥寺駅の発展

次に、建物疎開地となった吉祥寺駅前の特殊性を考察するため、ここでは吉祥寺駅が開設し、周辺が発展するまでの展開を整理する。吉祥寺駅の開業については『武蔵野史』において、地元住民8名が中心となって会社と交渉し、村民に必要性を力説したことが記されている。また、開設の原因として、当時隣接していた境村で境駅（現・武蔵境駅）が独自に開設されたことによる影響があった。また、当初駅が建設予定だった箇所は地元農家からの反対があったため、予定地より西側の月窓寺の敷地内に開設されることとなった。これは月窓寺の敷地が短冊形で南北に非常に長い敷地であったため、土地の譲渡に適していたことが理由として挙げられる。そして、この当時は貧しいばかりの村であった吉祥寺は関東大震災を契機に郊外住宅地へと性格を変える。直接的な原因としては成蹊学園の移転などの教育施設の移転による富裕層の流入と中島飛行機武蔵野製作所などの軍需工場の進出による人口増加が挙げられる。

4-3. 吉祥寺地区の開墾と井の頭恩賜公園

次に、吉祥寺地区の特殊性をこの地域の土地所有の状況から考察する。吉祥寺地区は図2に示すように、3つの寺院と旧農家が井の頭恩賜公園に面する形で短冊状に敷地を与えられている。まず、井の頭恩賜公園について、この場所の池は地下水が湧出しているが、江戸時代以前は池の周囲が低地となり生活用水として利用しづらかった。しかし、玉川上水が整備されたことで池の水を分水利用することができるようになったのだ。

5. まとめ

ハモニカ横丁と井の頭恩賜公園という吉祥寺地区における2つのアイコンを取り上げたが、これら2つが同一の地理的条件に結びついていることが示された。

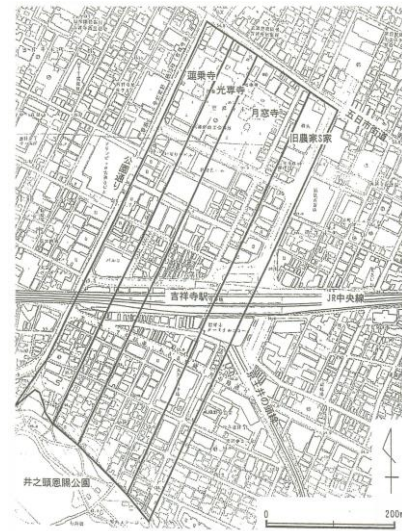


Figure2. 吉祥寺駅周辺の地権者

このように、その地域におけるいくつかの異なるアイコンが同一の背景によって結ばれるまで調査することで、都市構造の追求がなされる。

6. 参考文献

- [1] 長谷川香、『東京の都市史』, 建築史学, 2023, 80 巻, p. 81-106.
- [2] 井上健一郎、『吉祥寺「ハモニカ横丁」物語』, 国書刊行会, 2015 年.
- [3] 橋本健二・初田香成、『盛り場はヤミ市から生まれた』, 青弓社, 2013 年.
- [4] 陣内秀信・三浦展、『中央線がなかったら 見えてくる東京の古層』, ちくま文庫, 2022 年.
- [5] 池享・櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之, 『みる・よむ・あるく 東京の歴史 10: 地帯編 7』, 吉川弘文館, 2021 年.
- [6] 高橋珠州彦「近代における大都市近郊地域の都市化過程—特に東京都武蔵野市吉祥寺地区の旧農家と移入者の動向を中心として—」筑波大学大学院歴史・人類学研究家史学専攻歴史地理学コース修士論文, 2001 年.
- [7] 高橋珠州彦, 「大都市近郊地域の市街化と根生いの人々の転業過程—明治後期から高度経済成長期までの武蔵野市吉祥寺地区を事例として—」, 『都市地理学』, 7 巻, 2012 年
- [8] 貝塚爽平, 『東京の自然史 増補第二版』, 紀伊国屋書店, 1967 年, pp. 67-68.